

今の自分、未来のジブン～いま、わたしができること～

学校名	石川県金沢市立扇台小学校		授業者氏名	西村 学
対象学年 (人数)	小学校6年生(30名)×2		実践年月 (時数)	2024年 1月 (9時間)
担当教科等	全科			
単元名 (活動名)	世界の未来と日本の役割			
実践する 教科・領域	社会科、(国語科、総合的な学習の時間)			
学習領域	A 多文化社会 … 文化理解 () / 文化交流 () / 多文化共生 () B グローバル社会 … 相互依存 (○) / 情報化 () C 地球的課題 … 人権 (○) / 環境 (○) / 平和 (○) / 開発 (○) D 未来への選択 … 歴史認識 () / 市民意識 (○) / 社会参加 (○)			
単元目標	日本の役割について、地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して調べ、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現することを通して、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、援助や協力を行ったりしていることを理解できるようにする。また、世界の人々と共に生きていくために大切なことについて自分たちができることを考えようとする態度を養う。			
単元の 評価規準	知識および技能	・我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。		
	思考力、判断力、 表現力等	・地球規模で発生している課題の解決策と我が国の国際協力の様子を関連付けて、国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、学習したことを基に今後、我が国が国際社会において果たすべき役割を多角的に考えたり表現したりしている。		
	学びに向かう力、 人間性等	・グローバル化する世界と日本の役割について、主体的に問題解決しようしたり、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	写真や映像を見たとき、その世界はこの地球上のどこかであることは誰もが分かっているはずなのに、私たちは、自分の生活がそこにつながっていると感じながら日々の生活を送ることは難しい。その世界に対して自分は何ができるのか分からず、結局はどこか遠い国のこととして自分の気持ちを処理してしまいがちである。それはなぜだろうかと考えたとき、そういう意識を幼少時代から持ち続ける訓練をしてこなかったからではないかと思う。なぜなら、私たちが子どもの頃は、そこまでグローバル化を意識する機会や学習がなかったからである。しかし、ここ20年でグローバル化の波はあっという間に世界を包んでしまった。加えて、状況を改善できる選択肢があったとき、それはすべての世の中の人間がもてる選択肢ではない。さらにその選択肢は1ヶ月後にあるかどうか分からない。ならば、その時代に生きる子どもに対し、自分の中に選択肢がいくつあるのかを考え、行動に移していくことに大きな価値を求めることが必要である。しかし、人は、実感をともなった興味のあることにしかなかなか行動に移せない。だからこそ、身近なモノでいかにその感覚・想像力を自分が生きる世界に近づけていくかが肝要である。題材として扱うチョコレートは、とても身近な食べ物であり、つながりもあるため、児童は関心や意欲を持ちやすい。そのため、将来にわたりチョコレートに触れるたびに自分を見つめ、世界とのつながりを意識し、地球市民としての「自分の在り方・生き方」について考え続けていくことが期待できる。			

[単元計画 (全9時間)]

時	ねらい	学習活動	資料など
1 本時	世界の様々な課題の一つである貧困について知るため、カカオ農家の収入が少ないと、どんなことが起きるのかについて考えることができる。	- 身近なチョコレートがどのような過程を経て自分たちの手元に届いているのかを知る。 - その過程で消費者が払うお金の大部分が途中の業者に行ってしまうことを理解する。 - 農家の収入が少ないとどんなことが起こるか貧困カードで循環図をつくる。	- 通常の貿易の仕組みを説明するスライド 「開発のための教育(日本ユニセフ協会)」の貧困カード - HP「ACE」
2 本時	収入が低いことが引き起こす様々な問題の悪循環を打破する方法の一つであるフェアトレードのよさについて理解し、今、自分にできることを表現することができる。	- フェアトレードチョコレートはなぜ高いのかについて予想する。 - 予想を確かめる調べ活動を通じて、「人にも地球にもやさしい」フェアトレードの良さを知る。 - フェアトレード商品にはどのようなものがあるのか紹介する。	- フェアトレードの仕組みを説明するスライド - ネパールで購入したフェアトレード商品
3	ネパールのフェアトレード団体 ACP 工場の活動の様子を知り、声を聞き、生産者が実際どのような恩恵を受けているのか理解することができる。	- 前時の貧困の悪循環図をもとに、ネパールの児童労働や識字率(男女別)等のデータを提示し、ネパールが抱える大きな問題を捉える。 - 前時で紹介したフェアトレード製品が作られた ACP ネパール工場内の働いている人や作業の様子を知る。 - ACP ネパール工場がどのようなことを大事にしているのか、生産者にはどんなメリットがあるのか知る。 - 世界の様々な課題を解決するために日本や世界はどのような活動をしているのか関心をもつ。	- ネパールの児童労働や識字率就学率等のデータ - 見学時に撮影した写真や動画
4 5	国際連合の特色や各国連機関の取り組み、日本の人々の活動を調べることを通して、国際連合が行っていることや日本の人々の活躍を理解することができる。	- 国際連合や日本の関わりについて調べる。 - ユニセフなどの取り組みを調べ、その働きや日本の取り組みを調べる。	- HP「国連 KIDS」 - HP「教えて！ユニセフ 子どもと先生の広場」 - NHK「緒方貞子 戦争が終わらないこの世界で」の動画
6	持続可能な社会の意味やSDGsなどの取り組みを調べることを通して、世界や日本には現地の人々と協力して環境保全に努める多くの人々がいることを理解することができる。	「持続可能な社会」の意味や具体的な取り組みを理解する。 「持続可能な開発目標(SDGs)」について調べ、持続可能な社会を実現するための取り組みがあることを理解し、これからの日本の取り組みを考える。	HP「SDGs CLUB」
7 8	JICA 海外協力隊や NGO で活躍する人たちの話や資料から、日本の国際協力の様子について理解することができる。	- ODA の意味や JICA 海外協力隊の具体的な取り組みを調べる。 - NGO の意味をとらえ、具体的な取り組みを調べる。	NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀 ～川原尚之～」の動画
9	国際社会における課題を解決していくために、自分たちにできることは何か追究しようとするすることができる。	- 世界の課題が十分に解決されているかを調べ、自分たちができることを考える。 - 解決のためには改めて何が必要かを考えさせながら、今の自分にできること、将来どのようなことがしたいかを明らかにし、それを国語科の学習と関連させスピーチとして発表する。	

〔本時の展開（1・2時間目）〕

ねらい	・通常の貿易から引き起こされる児童労働などの問題を考えることを通して、その問題の悪循環を打破するフェアトレードのよさについて理解し、今、自分にできることを表現することができる。		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
導入 5分	1. 貿易ゲームの「良い貿易とは？」の児童の感想を紹介し、今日は「新しい視点」で貿易について考えることを伝える。 2. クイズをし、児童の関心を高める。 ・チョコレートは1家族の購入額が金沢は全国1位なんだ。 ・日本は約80%をガーナから輸入しているんだね。	・コミュニケーションをとりやすい雰囲気をつくるために和やかに行う。	・児童の振り返り
展開① 40分	3. 95円で買ったチョコレートがカカオ農家からどのような経緯（貿易）で手元に届くか理解し、消費者が払ったお金の大部分が途中の業者に渡ってしまい、農家の収入が非常に少ないこと（約2万円）を伝える。 4. 本時の課題を確認し、予想をする。 <u>農家の収入が少ないと、どんなことが起こるのか</u> ・カカオ作りをやめると思う。でも新しい仕事あるのかな。 ・お金が無いし、盗んだりして犯罪が起きてくると思う。	・経緯をプレゼンソフト使うことで視覚的に理解しやすくする。 ・ギャラリー方式で他のグループの考え方を知り、席に戻った後に自分のグループで共有する。 ・映像を視聴することで、問題点についてより具体的に捉えられるようにする。また、「このクラスの○人の内○人が…」と数値で例えることで問題意識を強く持たせる。	・通常の貿易の仕組みを説明するスライド ・「開発のための教育（日本ユニセフ協会）」の貧困カード
展開② 40分	5. 貧困カードを配付し、貧困の悪循環をつくるグループ活動を通じて、問題の構造を発見する。 6. 映像資料で現地の状況を具体的に捉え、ガーナの現状について検証する。 【児童労働】2003年は10人に1人→5人に1人 【識字率】2008年は65%→80% 【初等教育卒業】70% 7. 悪循環を断ち切り、問題を解決する方法を考える。 ・収入を増やしたり、児童手当や食料を配付すればいいよ。 8. 悪循環を断ち切る一つの方法としてフェアトレードを紹介するためにフェアトレードチョコレートを提示し、475 円という値段を伝え、課題を確認し、予想する。 <u>フェアトレードチョコレートはなぜ高いのか</u> ・高い原材料を使っているのだと思うよ。 9. チョコレートの包み紙を調べる活動を通じて、フェアトレードについて理解を深める。 10. フェアトレードの製品にはどんなものがあるか紹介する。	・映像を視聴することで、問題点についてより具体的に捉えられるようにする。また、「このクラスの○人の内○人が…」と数値で例えることで問題意識を強く持たせる。 ・値段を伝えた後、500円分、どちらを買うか問う。同じことを学習後にも問うことで変容が見える。また、「買う」という行動を見つめ直すことができる。 ・児童は必ず「食べてみたい」というので準備しておく。食べることでより意欲や関心が高まる。 ・「児童労働をさせているのは誰なんだろう？」と問うことで、消費者である自分たちがその当事者の1人であることに気づけるようにする。	・「世界がもし100人の村だったら」（ポニーキャニオン） ・HP「ACE～ゴットフレッドさんのケース～」 ・フェアトレードチョコレート（ピーブルツリー） ・包み紙人数分 ・フェアトレードの仕組みを説明するスライド ・フェアトレードショップ製品写真 ・授業者がネパールで購入したフェアトレード商品
まとめ 5分	11. 振り返りを交流する。 ・フェアトレード製品が作られているところを見てみたい。		
評価規準に基づく本時の評価		・本時は導入部分であり、「学びに向かう人間性」での評価を記したい。児童の振り返りには、「自分の中で『公平』という言葉がただの公平ではなく、きちんと納得できるという意味が付け加わった」、「相手のことを思いやるやさしい心を持てれば世界の大きな差も縮まっていくのではないか」、「これからチョコレートを買うときに思い出そうと思った」等、たくさんの世界を変えたい！という思いに溢れているものが数多くあった。このことから、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている姿が見て取れる。	

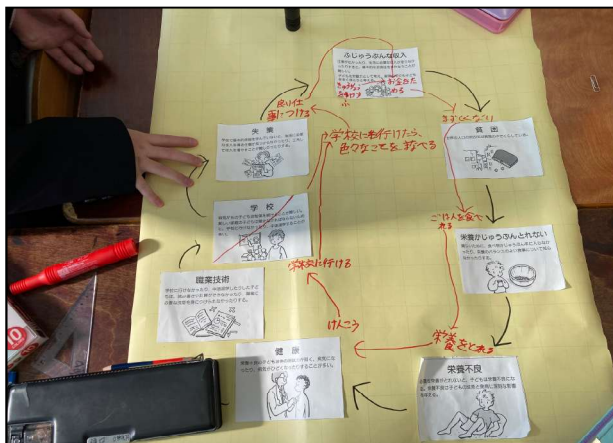
〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	・貧困の悪循環を各グループで考えた後は、他の考え方を知り、見方を多面的にするためにギャラリー方式で共有を図る。その後、全体の意見を聞きながら、クラスの貧困の悪循環を完成させることで考えの深まりが見られた。 ・まず児童自身に悪循環を断ち切る方法を考えさせることで、能登半島地震の支援とつなげて考え、支援の意味を自分たちで見出す姿勢が見られた。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	・全職員にネパールの研修報告会を行った。 ・単元計画の1～3時は、ねらいを変えて4年生(2クラス)、5年生(2クラス)にも実施した。事前に各担任と展開の相談を行い、各担任にはT2として板書をお願いした。 ・他校児童にもゲストティーチャーとして研修の学びを伝えに行った。
苦労した点	・社会、国語、総合的な学習の時間、道徳など教科横断的な学習をどのような順序で行えばより学習効果が高まるのかカリキュラムを考えること。 ・各学年に応じて教科の特性を考えた上で「ねらい」を変えること。
改善点	・新しい学びを得るたびに、「自分にできること」「仲間とできること」「社会のできること」の3つの視点で「できること」を増やしていく。学習の終盤にはX軸を行動の主体となる単位、Y軸を難易度とし、自分の考えた「できること」がどこに分類されるか位置づけていく。それをもとに「ランキング」や「できることビンゴ」に整理し、国語のスピーチ原稿作成につなげていく。
成果が出た点	・児童自ら授業を行った当日、家の中にフェアトレード製品がないか調べ、翌日嬉しそうに報告してくれた。 ・児童自ら保護者をお願いをしてフェアトレードショップに訪れた。 ・職員に国際理解教育に興味を持つ人が出てきた。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	・今日の勉強の前まではフェアトレードなんて知らなかったし、チョコレートを食べる時に力カオ農家のことなんて考えなかったけど、この勉強をして、次からは児童労働をさせていないフェアトレードチョコレートを食べてみようと思いました。大人にもフェアトレードを知っている人はいるだろうけど、詳しく、深くはその製品の向こう側は知らないと思うので、「高い」という一面的な見方ではなく、「想像力」を使って、「自分が買うことで…」と考える人がたくさんになるといいなと思いました。 ・今日、フェアトレード製品が高い理由を学びました。自分たちは今までただ「おいしい」とニコニコ食べていたけれど、辿っていけば自分たちのせいでもあるような気がして、情けなくなり、苦しい子どもたちの心が聞こえてくるような感じになりました。この授業をして値段への思いが改まったし、世界から児童労働やモノを安く買いたたくなどのことが無くなればいいなと思いました。
授業者による自由記述	子どもたちはこれから、何度も何度もチョコレートに出会おうだろう。そのたび、そのチョコレートの「向こう側」を少しでも想像し、考えることをくり返していくことができれば、世界は変わるのではないかな。子どもたちの感想から、その可能性が十分感じられることが授業者としてうれしく思う。求められて動くのではなく、自分の意志で、社会や世界など自分の周りを「変える」ために「いま、自分にできることは何なのか」と問い続け、行動に移す子どもたちの姿をこれからも教師として追い求めていきたい。
単元構想・実施における参考資料等	・月刊ジュニアエラ 2010 年 3 月号(朝日新聞出版) ・NHK 地球データマップ～世界の「今」から「未来」を考える～(NHK 出版) ・NGO「ACE」ホームページ ・「コミュニティトレードal(アル)」が発行した新聞・チラシ

[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



▲ 収入が低いことから起こる問題の循環図をつくる様子



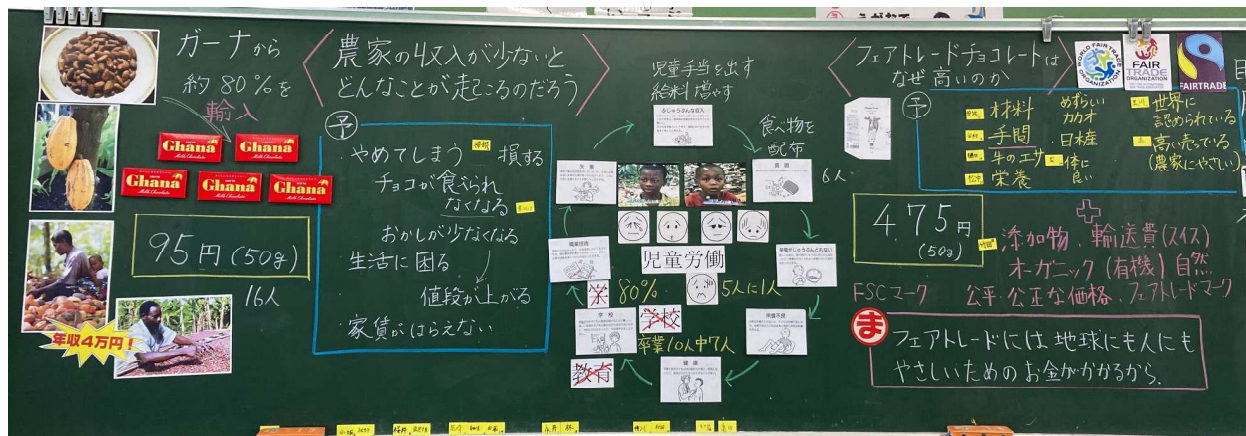
▲ 循環図をもとに断ち切る方法を考えている様子



▲ フェアチョコが高い理由を包み紙から考える様子



▲ ネパールのフェアトレード製品(手袋)を確認する様子



- ・私は学校に行けない子どもや休憩もとれない子どもたちがいるんだと学びました。私が学校で「当たり前」にしていることができない子どもがいることにびっくりしました。もっともっと知りたくなりました。
- ・今日のフェアトレードの授業で前に買い物に行ったときに〇〇(会社名)のオリジナル製品の隅にそのマークがあったことを思い出しました。最初見たとき、「これは何だろう」と思っていたのが「あれはフェアトレードマークだったんだ!」と分かったのが嬉しいです。これからフェアトレードマークを見つけたらそれが結構高めでも買ってみたいかなと思いました。

▲ 授業後の児童の振り返り(前ページ以外)